

切磋琢磨



令和2年1月8日
恵那市立恵那東中学校
恵那市大井町 1073-1
TEL (0573) 25-5261

課題解決力と自己コントロール力

校長 伊藤 勝彦

あけましておめでとうございます。令和の時代となり初めて新年を迎えました。いよいよ今年はオリンピックイヤー、さまざまなできごとが展開される一年になることが予想されます。

さて、今年も正月の風物詩となった箱根駅伝が青山学院大学の総合優勝で幕を閉じました。昨年は優勝を逃し、4連覇の後、2年ぶりの優勝でした。今年は例年になく超高速駅伝となりました。好天候や厚底シューズの影響だと言われています。優勝した青山学院大学には隠されたドラマがあったと報道されています。リーダーシップのなかった4年生が力を付け大変貌を遂げたことが優勝の要因だとされています。練習はさぼる。きまりは守らない。そんな4年生に原監督は日常生活の立て直しを命じました。日常生活がよくなることで自分の弱さや甘さを克服し自分をコントロールする力が学生に付いてきました。そして、それが計画的に行う練習をやり抜く力を生み出し、タイムもどんどん伸びていったそうです。そのことでチーム全体の底上げが図られ、今年の箱根駅伝総合優勝につながったということです。優勝するに足る厳しい練習も、それを自分ごととして受け止め主体的に練習に取り組まなければ結果は付いてきません。その結果を生み出したのが、日常生活であり、自己コントロール力です。それが基盤となって、「箱根駅伝総合優勝する」という課題を達成できたというわけです。

今年の箱根駅伝での青山学院大学の優勝の要因や背景を知ると、これこそがこれからの社会で生きていくために必要な力ではないかと思えます。数年来、予測困難なこれからの社会を生き抜くために必要な力について、さまざまなことが議論されています。ある専門家は、「人間だけが発揮できる力」が必要だと言っています。具体的には、「クリエイティビティ(創造力)」、「ホスピタリティ(接客力)」、「マネジメント(管理能力)」だとしています。そんな中、青山学院大学の優勝から、確かな日常生活を基盤とした「自己コントロール力」と「課題解決力」こそが、これからの社会を生き抜いていくための必要な力ではないかと考えることができます。

実は、これらの力は恵那東中学校での普段の生活の中で生徒が身に付けている力でもあると考えます。ただし、意識してそのことを行っているかどうかは別です。「自分をコントロールする」ということは、「自分がやりたいこと」を優先するのではなく、「自分がやらなければならないこと」を優先する中で身に付けていくことです。2年生では「自律」ということを学年の目標にして学校生活を送っていますが、まさにこれは自己コントロール力そのものです。1年生も3年生も、「自分がやらなければならないこと」は何なのかを意識しながら生活しています。また、どんな活動に取り組むときも、めざすべき目標をもち、さまざまな方法を考えてやり抜き、確実にできたかどうかを振り返っています。この「めざして—やって—確かめて」の一連のサイクルを回しながら取り組んでいくことが課題解決力を高めることにつながります。これは、恵那東中学校では日常的に行われていることです。

このように、現在、恵那東中学校で行われている取組を、意識して行っていくことが大切です。そのことが、これからの予測困難な社会でも通用する力を身に付けていくことになるのではないかと思います。「黄金期」の恵那東中学校を全校一丸となって創り上げていく中で、生徒一人一人が課題解決力や自己コントロール力を付けていきます。令和2年も恵那東中学校の生徒に温かいご声援をよろしくお願いします。



七日市「しぶろく大井宿」
で活躍する東中生